

No.52

September 2009

SISTER CITY NEWS

姉妹都市だより



CONTENTS

サンフランシスコ	2
サンパウロ	3
シカゴ	5
メルボルン	7
ハンブルク	8
ミラノ	9
サンクトペテルブルグ	13
上海	14
協会だより	16

(2008年10月～2009年3月までの主な行事を掲載)



San Francisco

サンフランシスコ桜の女王が大阪市役所を表敬

San Francisco Cherry Blossom Queen Visits Osaka

2008年11月5日(水)、サンフランシスコから、2008年サンフランシスコ桜の女王のアリシア・カガワさんが大阪市役所を表敬訪問しました。

アリシアさんは、兄のクリストファー・カガワさん、サンフランシスコ桜祭協会委員のベン・ナカジョウさんとともに大阪市政策企画室山本室長から歓迎の挨拶を受けるとともに、サンフランシスコ市長からの親書を手渡しました。

アリシアさんは、現在北カリフォルニア日本文化コミュニティセンター(JCCCN)に勤務されています。祖父母が住むハワイ大学に入学するまで日系人の友人はいなかったということですが、昨年の夏にJCCCNのプログラムで初訪日し、神戸のYMCAで日本語を学んだり、2つの家庭でホームステイを経験したことから、日本への興味に火が付き、JCCCNに就職するきっかけとなりました。高校時代から生徒会などの活動に携わり、大学では英語専攻としてクリエイティブ・ライティングを勉強する傍ら、政治学で人権について学び、ダルフル紛争による難民のための募金活動なども行いました。また、語学習得にも積極的で、日本語のほかにイタリア語、ハワイ語を学んでいるそうです。



▲表敬訪問での様子

(左からクリストファー・カガワさん、アリシア・カガワさん。山本政策企画室長、ベン・ナカジョウさん)



São Paulo

サンパウロ市フェルドマンスポーツ局長が来阪

São Paulo's Sports Secretary, Mr. Feldman Visits Osaka

2008年10月31日（金）、サンパウロ市のワルター・フェルドマン局長夫妻が来阪しました。フェルドマン局長は、浜松市で行われる Shidokan Junior Karate World Cup 2008 などに出席するため来日するのを機に、翌年姉妹都市提携40周年を迎える大阪市とサンパウロ市の姉妹都市関係の一層の強化のため、夫人のクラウディア・プラザさんを伴って、大阪市を訪れました。

フェルドマン局長とプラザ夫人は、大阪市役所に到着後、政策企画室山本室長をはじめ同室国際交流担当橋本部長、都市間交流担当藤田課長のほか、ゆとりみどり振興局の西村スポーツ部長、山村競技スポーツ担当課長と永石担当係長へ表敬訪問をしました。対談の中では、姉妹都市提携40周年記念を迎えるにあたり、大阪・サンパウロ双方で記念事業について協力し合うことを約束しました。

次に、フェルドマン局長夫妻は市会にも訪れ、木下議員をはじめ、2月にサンパウロ市を行政視察した大阪市会議員海外視察団の議員の方々と面談したほか、市会議場に案内され、沢山の議員から説明を受けました。

この後、フェルドマン局長から強い要望により、長居陸上競技場へ。長居陸上競技場は、大会史上初めてとなる日本・韓国の2国間による共同開催となった2002FIFAワールドカップの会場の一つとして、また、IAAF世界陸上2007大阪の開催地として、大阪が誇る陸上競技場です。

フェルドマン局長夫妻は、天然芝のフィールドと飛び立つ鳥の翼をイメージした屋根をシンボルとする、開放感あふれる競技場を熱心に視察されました。貴賓室からの眺めを楽しみながら、サッカーをはじめさまざまなスポーツ交流について語り、セレッソ大阪のユニフォームを記念品として受け取りました。

翌日の浜松市への出発を控え、大阪での滞在はこの日のみでしたが、意義ある一日となりました。



▲市役所を表敬訪問し、山本政策企画室長と記念撮影

ブラジル移住 100 周年記念&大阪・サンパウロ姉妹都市提携 40 周年イベント
「異文化大国ブラジルに挑戦する 21 世紀日本の『内なる国際化』」

100th Anniversary of Japanese Immigration to Brazil, Osaka- São Paulo Sister City Affiliation
40th Anniversary Event

2008 年 12 月 21 日（日）、大阪国際交流センターで開催されたワン・ワールド・フェスティバルで、日本ブラジル交流年を記念して、大阪・サンパウロ姉妹都市協会が中心となり、これからの日本とブラジルの関係や、内なる国際化、多文化共生社会について参加者と共に考えるトークイベントを開催しました。

コーディネーターの大阪大学 林田雅至教授を中心に、サンパウロ、ブラジルと深い関わりを持ち、ビジネス、医療、学問など各分野で活躍する 5 名の出演者が、ご自身の経験を振り返りながら、「日本人に多文化を多様性として受入れる寛容性が必要」、「日本で働く外国人も人間は教育がベースという観点で変わってほしい」など活発なディスカッションが展開されました。

会場の約 60 名の参加者からも幅広い質問と意見提起があり、交流年に相応しいイベントとなりました。当日は、3 階のイベント会場までの通路において、ブラジル移民 100 年の写真展（協力：国際協力機構）も開催し、多くの来場者が 100 年前に海を越えてブラジルの大地を切り開いた日系人の歴史と姿に、足を止めて見入っていました。

■参加者のご感想（アンケートから）■

- ・幼少期をブラジルで過ごし日本で教育を受けておられる方、その反対の方、お仕事でブラジルに行かれた方...いろいろな方のご経験や日本やブラジル間の国際交流についてお話を聞かせていただき、大変よい勉強になりました。
- ・1 年ほど前からブラジルという国に興味を持ち、本や映画等を見るようになりました。ブラジルという国のことを「生の声」で近い位置で聞かせていただき、大変勉強になりました。
- ・神戸市もリオデジャネイロ市と姉妹都市交流をしています。大阪市もサンパウロ市との姉妹都市提携 40 周年の歴史を活かし、骨太のネットワークを広げて欲しい。

■コーディネーター■

・林田 雅至さん

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授

■パネリスト■

・岡田 茂男さん

ダイキン工業(株)グローバル戦略本部顧問

・南谷 かおりさん

りんくう総合医療センター健康管理センター長
国際外来担当医

・高橋 研一さん

北里大学大学院客員教授

■サブコーディネーター■

・バルバラ・ピエトラガラさん

大学生

・畑本 幹彦さん

大阪国際交流センター専門職員



▲熱気あふれる会場の様子



▲移民 100 周年記念パネル展の様子



Chicago

柏木大阪市長がシカゴ市を訪問

Vice Mayor Kashiwagi Makes an Official Visit to Chicago

大阪・シカゴ姉妹都市提携 35 周年を記念して、柏木 孝大阪市長が、2008 年 10 月 15 日（水）～20 日（月）の日程でシカゴ市を訪問しました。滞在中は、大阪ガーデンの再整備完成除幕式など記念行事に参加したほか、柏木副市長自らが大阪市の都市再生、都市魅力についてアピールする「大阪セミナー」を開催する等、広く大阪のプロモーションを行いました。



▲デイリー シカゴ市長を表敬訪問

デイリー シカゴ市長を表敬訪問した際には、デイリー市長から提携 35 周年記念の額が柏木副市長に贈られ、柏木副市長からは龍村織のテーブルセンターをデイリー市長に贈りました。デイリー市長からは、「オリンピック誘致競争は厳しい状態なので大阪の経験も学びたい。シカゴ大阪直行便の誘致について応援したい。」などと述べられ、来春シカゴの姉妹都市が集まる会議の場での大阪セミナーのプレゼンテーションを提案されました。

大阪セミナーでは、柏木副市長が企業関係者等約 70 名に、大阪市の都市再生、ビジネスポテンシャルなど都市魅力について語り、また、大阪市への投資促進や企業・大学などの誘致等をアピールしました。セミナー終了後にはネットワークを広げ、参加者同士の交流の場として軽食レセプションも開催しました。



▲大阪セミナーの様子

また、大阪ガーデン再整備完成式典出席、ユナイテッド航空会社、ワールド・ビジネス・シカゴ(WBC)等の訪問、リー副市長やシカゴ姉妹都市委員会メンバー、在シカゴ日本総領事、大阪企業現地トップやシカゴ大学関係者等との意見交換会、河川からの市内視察など、短い日程の中で精力的に多くの日程をこなし、大きな成果を挙げました。

●詳しくは、柏木副市長のシカゴ出張報告書として、大阪市のホームページに掲載されております。
下記のアドレスをご覧ください。

⇒ <http://www.city.osaka.lg.jp/seisakukikakushitsu/page/0000021017.html>

足立 哲 前会長が大阪市の市民表彰を受賞

Mr. Satoshi Adachi, Former Chairman of Osaka-Chicago Association Receives Osaka Citizen Award

大阪市では、公益の増進、産業の振興、学術、文化の向上発展などに貢献し、顕著な功績のあった方、又は市民の模範となるすぐれた善行のあった方を広く市民に顕彰することを目的として、毎年1回、市民表彰を行っています。昭和41年から数え、今回で43回目となりました。

今回、足立 哲 前大阪・シカゴ協会会長が、シカゴ市との友好親善に努められたほか、在大阪パキスタン・イスラム共和国名誉領事として交流促進に尽力され、また、大阪商工会議所国際ビジネス委員会委員長として大阪への外国企業誘致に貢献されたとして表彰を受けられました。

表彰式は、2008年11月25日（火）午前10時より大阪市公館にて行われ、足立前会長のほか、計56名の方々が表彰されました。平松邦夫市長の挨拶、多賀谷俊史市会議長の祝辞の後、市長から表彰状が贈呈され、最後は市公館の庭に集まっての記念撮影を行いました。当日は、素晴らしい秋晴れとなり、祝賀ムードに包まれていました。

大阪・シカゴ姉妹都市提携35周年記念

シカゴ・ジャズ・コンサート～YOKO NOGE & JAZZ ME BLUES～

Osaka-Chicago Sister City Affiliation 35th Anniversary Chicago Jazz Concert ~YOKO NOGE & JAZZ ME BLUES~

大阪市とシカゴ市が姉妹都市を締結して今年で35年となることを記念して、11月26日（水）、帝国ホテル大阪においてシカゴ・ジャズ・コンサートを開催しました。

大阪出身で、現在シカゴにてジャズシンガー、ピアニストとして演奏活動をし、日本経済新聞社記者、シカゴ姉妹都市委員会大阪委員会共同委員長など多彩な分野で活躍する、野毛洋子さんとそのメンバーの皆さんが、YOKO NOGE & JAZZ ME BLUESとしてシカゴ・ジャズを演奏しました。

当日、会場には姉妹都市協会会員や公募で選ばれた一般参加者など約140人が集まり、ステージから繰り広げられるパワフルで心地よいジャズに聴き入り、秋の夕べを存分に楽しみました。

コンサート終了後の大阪・シカゴ協会主催による交流会には、柏木副市長、エドワード・ドン駐大阪・神戸アメリカ総領事もご出席のもと、約30名の姉妹都市協会会員が集まり、演奏者の野毛洋子さんとそのメンバーの皆さんを囲んで、とてもアットホームで会話の弾む会となりました。



▲パワフルなジャズに聴き入る会場の様子



Melbourne

コアラのイベント告知板の寄贈

Notice-board for Koala Events Presented to Tennoji Zoo

2009年3月末、姉妹都市提携30周年を記念して、大阪・メルボルン姉妹都市提携30周年記念事業実行委員会から、天王寺動物園に、コアラのキャラクターをデザインしたイベント告知板寄贈をしました。

現在、天王寺動物園には、2008年6月24日にメルボルン動物園から寄贈されたコアラの「アーク」(オス)と「スピカ」(メス)がおり、大変人気があります。しかし、コアラはとても神経質な動物で、「スピカ」は、来園当初はユーカリを自分

で食べてくれないなど、少し心配な状況が続き、早く大阪の地に慣れて元気に暮らしてもらえるように飼育員の方々も、注意深く見守っておられるそうです。

「アーク」と「スピカ」の名前の由来は、牛飼座のアークトゥルスと乙女座のスピカからで、夫婦星といわれています。夫婦仲良く子宝に恵まれるようにと名づけられました。天王寺動物園に行かれる時には、大阪とメルボルンの友好の証であるコアラ舎を是非訪れてみてください。



国際交流フェスターみなと秋まつりー

Autumn International Exchange Festival at Tempozan Harbor Village

2008年10月5日(日)、天保山ハーバービレッジ内のイベント広場で「国際交流フェスターみなと秋まつりー」が開催され、大阪に住み、活動している留学生をはじめ、在住外国人による各国地域料理の屋台や民族舞踊、民族音楽の演奏などが繰り広げられ、約1万人の市民が訪れました。

大阪市とメルボルン市の姉妹都市提携30周年を記念して、大阪とメルボルンとの交流を写真やパネルで紹介するとともに、オーストラリアの先住民、アボリジニが用いる世界最古の木管楽器「ディジュリドゥ」の製作体験等を参加者の皆さんに楽しんでいただきました。

また、オーストラリアのダンス&ソウル音楽グループ「HERMITUDE and URTHBOY」のコンサートも開催され、オーストラリアの文化に、親しみました。



▲「ディジュリドゥ」の楽器製作体験の様子



Hamburg

ハンブルク・バレエ団芸術監督 ジョン・ノイマイヤー氏講演会

Seminar with Mr. John Neumeier, Director and Choreographer of Hamburg Ballet

2009年2月27日(金)、梅田スカイビルにおいて、ハンブルク・バレエ団芸術監督 ジョン・ノイマイヤー氏をお迎えして、講演会を開催しました。

この講演会は、2月26日～3月1日のハンブルク・バレエ団関西公演のため来阪される機会に、大阪・ハンブルク友好都市提携20周年を記念して、ドイツ文化センター・大阪と共催で実現したもので、当日は111名の方にご参加いただきました。

講演会では、関西音楽新聞発行人の白石裕史氏を聞き手に、ノイマイヤー氏が自身の振付け映像を使用して、日本初演となる『人魚姫』や代表作『椿姫』など自らの作品作りについて紹介されました。

ノイマイヤー氏は、「足のない人魚姫を舞台上で表現するのに、以前見た狂言の袴からヒントを得た」、「衣装や髪型にも様々な文化の影響を熟成させて作品を創り上げていった」など、創作秘話をいろいろお話しくださり、会場の皆さんも世界的な振付家の貴重なお話に熱心に聞き入っていました。



▲講演会の様子

ハンブルクと大阪の日常を比較 ハンブルクの写真家の来阪

Photographer from Hamburg visit Osaka

ハンブルクで写真集も出版しているプロの写真家、ニコール・ケラーさんとオリバー・シューマツハさんが、大阪市とハンブルク市の友好都市提携20周年を記念して大阪市とハンブルク市で開催される写真展にむけて、2009年3月25日から4月5日まで、大阪の風景をフィルムに収めるために来阪されました。

二人にとって初めての大阪滞在でしたが、地元の人も気づいていない大阪の魅力を表現しようと、道頓堀や新世界、中央卸売市場の競りや大相撲大阪場所など、大阪を隅から隅まで果敢に歩き回り、愛用のニコン製デジタル一眼レフカメラで普段見過ごされているような日常的な瞬間や場面



▲ニコール・ケラーさん(左)とオリバー・シューマツハさん(右)

を撮影、特に、白壁の土蔵や古い町並みが残る平野区では、案内してくれた地元の方々の話にゆっくり耳を傾け、町の文化が大切に保存されていることに大変感銘を受けておられました。

ハンブルクと大阪の日常を比べて展示する写真展は、6月1日から12日まで、大阪市役所の市民ロビーで開催されました。



Milan

協力：イタリア文化会館、プッチーニ・フェスティバル財団、在大阪イタリア総領事館
第6回イタリア音楽の夕べ

The 6th Italian Music & Dinner Party

今年6回目を迎える「イタリア音楽の夕べ」は、2003年秋、当時のイタリア総領事ボツリ女史のご協力で始まった音楽会。イタリア側歌手の諸経費はイタリア側が、大阪側歌手の費用は当協会が負担という日伊親善交流の新しい場となりました。

今回は2008年10月30日(木)帝国ホテル大阪にて、イタリア方はソプラノのアントニア・チフローネさん、大阪方はテノールの小餅谷哲男さん、お二人の競演となりました。当日は、西村嘉郎会長、ダビデ・ジリオ総領事、ボツリイタリア文化会館・京都館長はじめ、100名に迫る参加者で満員。

まずは西村会長のご挨拶、ダビデ・ジリオ総領事の乾杯の後、帝国ホテルのおいしい料理に舌鼓を打ちました。

お腹を満たした後の音楽会。真っ赤なロングドレスのチフローネさん、オペラの誰かの役を想像させる丈の長い上着の小餅谷さん、そして伴奏者を加えて4人が拍手の中入場。ご挨拶代わりに一曲目は、まず小餅谷さんがレオンカヴァッロの歌曲「朝の歌」、チフローネさんはプッチーニの歌劇「マノン・レスコー」より「この柔らかいレースに包まれて」。今年はプッチーニ生誕150周年ということで、チフローネさんは全曲プッチーニのアリアを歌い上げました。さすが現役の国際派オペラ歌手、素晴らしい声が会場いっぱいに轟き、「ブラボー！」の掛け声が何度も響き渡りました。

一方、大阪方の小餅谷さんも負けじと熱が入っ



▲西村会長



▲ダビデ・ジリオ総領事

てきて、ロッシーニの歌曲やナポリ民謡などを歌い上げ、盛り上がっていきます。

そして、アンコールで遂にデュエットが実現、歌劇「ラ・ボエーム」から「愛の二重唱」を手に手を取っての熱演。本物の舞台を目の当たりにしているような錯覚を覚える程。拍手！拍手！大拍手!!日伊親善交流ここに極まれり。出席者一同大満足のひと時でした。来年も是非 7 回目を実現したいものです。

小耳に挟んだエピソードを一つ。終演後、小餅谷さんの提案で、出演の 4 人の皆さん、近くの居酒屋で一緒に食事をし、その後、大阪初めてというチフローネさんをライトアップされている大阪城に案内したという、出演者同士の別の“日伊親善交流”もあったということです。



▲熱唱するアントニア・チフローネさんと小餅谷哲男さん

第 54 回インコントロ・ビメストラレ昼食会・講演会 「ブドリオのオカリナ～演奏とお話」

The 54th “Incontro Bimestrale” Luncheon and Social Gathering

オカリナ発祥の地がイタリアだったことをご存知でしたでしょうか？イタリア・ブドリオ市から世界的オカリナ奏者が初来日。その名はファビオ・ガッリアーニさん。11 月初めに来日し、各地で 1 ヶ月間にわたり講演会や演奏会、実技指導をして回ったあと、最後に、2008 年 11 月 25 日（火）リーガロイヤルホテルでの当協会の講演会に出演して下さいました。当日は、両国国旗を正面に 85 名もの皆さんが参加、まず西村会長の挨拶、続いての乾杯のご発声はイタリア文化会館のボッツリ館長にお願いしました。

講演会では、オカリナはいまから 150 年余りにイタリア北部の町・ブドリオで発明されたこと、この町にオカリナ博物館があること、またオカリナは大小いくつもの種類があり、曲によって使い分けること、正式な演奏形態は七重奏であることなど教えていただきました。演奏曲は伝統曲からポプラーや日本の歌まで、解説も入れながら 16 曲も披露していただきました。長身のガッリアーニさんが、小鳥ほどの小さなオカリナを手に、体全体をくねくねさせて調子を取りながら吹く様は



▲グラツィア・ボッツリ イタリア文化会館・京都館長



▲演奏するファビオ・ガッリアーニさん

なんともユーモラスでありました。またバルバラ夫人も飛び入りで、地元の子守唄を歌って下さり、息の合った二人に、会場から大きな拍手が起きていました。

最後に、会員から「オカリナは日本の民謡や童謡にも合う楽器と思う。イタリアで日本の曲をどんどん紹介していただきたい」という要望もありました。

ところで、初来日のガッリアーニさんは大の温泉好き。連日の忙しさもものかは、あちこちで露

天風呂など楽しんだそうです。また日本の JR 新幹線など電車の運行時間の正確さには本当にびっくり! したということです。

オカリナを通して日本とイタリアの友好の絆がさらに強くなったひとときでした。



▲オカリナのいろいろ

第 55 回 インコントロ・ビメストラレ 昼食会・講演会 「雅楽イタリアに行く～ローマ・ラヴェンナ・フィレンツェへ～」

The 55th “Incontro Bimestrale” Luncheon and Social Gathering

2009 年 1 月 28 日 (水) リーガロイヤルホテルでの昼食会・講演会は、年明けにふさわしい「雅楽」を取り上げました。西村会長をはじめ、ゲストとしてダビデ・ジリオ総領事、原聰外務省特命全権大使ご夫妻、冷泉家第 25 代当主冷泉為人氏もお招きし、90 名を超える参加者がありました。

この日の会場は山楽の間という大広間。正面にはほぼ 3 間四方の特別舞台。赤と緑の毛せん、朱塗りの欄干。中には大きな鉦や太鼓。みやびな雰囲気醸し出されていました。2008 年 11 月、京都の「いちひめ雅楽会」の皆さん 16 名が、

イタリアのフィレンツェ、ラヴェンナそしてローマの 3 都市で巡回公演を行いました。オペラ発祥の地で、日本最古のオーケストラ「雅楽」はどのように受け止められたのでしょうか。その帰朝報告会となりました。

まず、団長格で同行された岩倉具忠氏 (京都外国語大学教授、いちひめ雅楽会後援会会長)からは、どの会場も満員に近い状況で、ローマ大学のイタリア人教授から雅楽についてのレクチャーがあったり、学生交流会では実際に楽器の体験をしてもらうなどして親善交流を深め、アンケート結果は満足度 100%という回答だったというご報告がありました。また 40 年ほど前の、ギリシャ悲劇のオイディップス王を描いたイタリア映画「アポロンの悲劇」の中で、パゾリーニ監督が雅楽曲を効果的に使っていたということも紹介されました。

続いて、金色の衣装に身を包んだ 10 名の奏者と赤色の服に身を包んだ舞の 1 名が拍手の中入場し、飛騨富久氏(市比賣神社宮司、いちひめ雅楽会 主宰)の解説付きで、管弦の曲「越天楽」と舞楽「蘭



▲舞台上で雅楽演奏

陵王」が披露されました。笙(しょう)、箏(ひちりき)、龍笛(りゅうてき)、鉦鼓(しょうこ)など、あの独特の音色が会場いっぱい響きわたりました。そしてゆったりした舞の動きを見ていると、時間が2倍も3倍もゆっくりと流れているような感じさえました。

西洋音楽が当たり前と思っている現在、日本の伝統音楽である「雅楽」に直接触れることにより、出席者の皆さんはその良さを再認識された様子でした。



▲美しい舞楽の様子

第56回インコントロ・ビメストラレ昼食会・講演会

「イタリア・オペラの名テノール歌手たち～今に甦る黄金時代の歌声～」

The 56th “Incontro Bimestrale” Luncheon and Social Gathering

2009年3月27日リーガロイヤルホテルにて、大前 努氏(日本イタリア声楽教育アカデミー代表)をお迎えして、開催しました。

パヴァロッティ、ドミンゴ、カレーラスといえ、世界ファンを唸らせた3大テノールですが、今回は古今のイタリア歴代有名テノール歌手を取り上げました。全盛期の歌声を聴きながら、声の持ち味などを比較して、人気の秘密を探ろうというユニークな試みです。

イタリア・オペラでは「テノール」。多くの人はずいぶん「テノール」に一種特別な魅力を感じるのか。講師の大前さんは1900年代に活躍した歌手を中心に10人の歌声の録音を紹介しながら説明をして下さいました。アレッサンドロ・ボンチ、アントニオ・パオリ、エンリコ・カルーヅ、ベニアミーノ・ジッリ、ジャコモ・ラウリ・ヴォルピ、マリオ・デル・モナコなどなど。

講演会では、まず「テノール」の語源の説明から始まり、当初は音のパートとして、男女関係なく歌われたとか。その後、100年前のテノール歌手の歌声が次々と部屋に広がり、解説がつく。例えばジャコモ・ラウリ・ヴォルピ(1892-1978)の、歌劇「リゴレット」から「女心の歌」を聞く。30歳の時の歌い方と数十年後の85歳の時のそれとを比較する。肉体は衰えても、若い時身につけた歌唱技術をずっと維持していることが素晴らしいという解説。いささか専門的なお話もありましたが、歌に関心のある方にとっては中身の濃い講演会になりました。講師の大前さんは自身が独唱歌手でありながら、日本人として初めてイタリア音楽学の学位を取得、イタリア人歌手そのものを学術的に研究している方です。

昼食会で乾杯の発声をしていただいた大阪外国語大学名誉教授の池田廉先生は、大前さんの京都市立芸大時代の恩師であり「後にも先にもイタリア音楽学の学位を取得したのは日本人では大前さんだけではないか」と紹介され、言葉の端々に、教え子に対する優しさが滲んでいるのを感じました。



▲大前さんがホワイトボードを使って説明



St. Petersburg

大阪・サンクト・ペテルブルグ姉妹都市提携 30 周年記念プレイベント
大阪中央公会堂開館 90 周年記念事業
ファンタスティック・トークショー『カラマーゾフの兄弟』

Osaka-St. Petersburg Sister City Affiliation 30th Anniversary Event

2008 年 11 月 25 日（火）、大阪中央公会堂大ホールにおいて、宝塚歌劇団雪組「カラマーゾフの兄弟」大阪公演（12 月 13 日～25 日）の出演者、演出家と同作品に造詣の深い齋藤孝氏（明治大学教授）によるトークショーが、大阪中央公会堂開館 90 周年記念事業の一環として開催されました。

ドストエフスキーの古典「カラマーゾフの兄弟」は、亀山邦夫氏（東京外国語大学学長）の新訳がベストセラーとなる等、時代を越えて現代に広く受け入れられており、トークショーでは、齋藤教授の音頭で、全員声をあわせて登場人物のせりふを音読するなど、会場は大変な盛り上がりとなりました。

ドストエフスキー縁の地であるサンクト・ペテルブルグと大阪市は本年姉妹都市提携 30 周年を迎えることから、プレイベントとしての意味もこめて、プログラムには両市の姉妹都市交流についての紹介が掲載されました。また、大阪中央公会堂の玄関ホールには大阪日ロ協会会員によるサンクト・ペテルブルグの写真が大きく展示され、たくさんの方が鑑賞しました。

大阪日ロ協会バレエセクション代表団のサンクト・ペテルブルグ訪問

The Japan-Russia Society, Osaka Branch, Ballet Section visits St. Petersburg

大阪市とサンクト・ペテルブルグ市の姉妹都市提携 30 周年を記念して、坪田律子バレエ団が率いる'09「日本の春」大阪日ロ協会代表団一行（総勢 27 名）が、2009 年 3 月 26 日（木）から 4 月 1 日（水）までサンクト・ペテルブルグ市を訪問しました。

この「日本の春」のイベントは、サンクト・ペテルブルグの日ロ協会の招待、在サンクト・ペテルブルグ総領事館と大阪日ロ協会の協力で実施されています。2000 年にプレイベントが大

阪主導で開催されてから本年度で 10 回目となり、サンクト・ペテルブルグにおいては市民権を得た大きな行事となっています。特に日本の子供たちによる民族的なバレエは大人気で、一行は、29 日（日）にはフィンランド駅の隣のカリーニン地区文化センター、レニングラードコンサートホールで公演を行い、観客が 600 席の会場を埋め尽くしました。コンサートには、川端在サンクト・ペテルブルグ日本国総領事も出席され、舞台と客席が一体となつての公演は大成功でした。

一行は、市役所を表敬訪問し、サンクト・ペテルブルグ対外委員会のベリャコワ部長に平松市長からの親書を届けたほか、名門ワガノワバレエ学校でレッスンを受けたり、子供たちの交流会に参加するなど大変有意義な時を過ごしました。



▲日本の子供たちによるバレエ公演の様子



Shanghai

鄭祥林 中華人民共和国駐大阪大使級総領事 着任表敬

New Chinese Consul General in Osaka, Mr. Zheng Xianglin

2008年12月12日(金)、鄭祥林(テイ ショウリン) 中華人民共和国駐大阪大使級総領事が、着任挨拶として、平松市長、多賀谷市会議長のもとを訪問されました。鄭総領事は、前職がネパール大使、また、これまで中華人民共和国駐日本大使館を始め、長崎総領事館でのご勤務経験があります。

平松市長は、「2009年友好都市提携35周年を迎える上海市との相互交流を要とし、アジア交流圏の拠点として、都市の活気にあふれる大阪をピーアールしていくので、ご支援、ご協力をお願いしたい。」と挨拶しました。

多賀谷市会議長は、「北京オリンピックには、日本からもたくさんの人々が中国を訪れ、一般の市民レベルでも活発な交流が行われた。これまでの貴重な交流の歴史を誇りに思うとともに、さらなる発展を目指し、より深い相互理解と各分野での交流の活性化に努めていかなければならない。」と挨拶されました。

鄭総領事は、「今後の中国は、省エネルギー、環境保護、社会保障などの面で力を入れていくべきであり、環境保護や廃棄物利用、都市建設など、日本から学ばなければならないことが多くある。総領事館が各方面と緊密な連携を取り、協力していきたい。また、上海万博は、中国人も待ち望んでいるイベントだが、大阪の出展はありがたく、期待している。」とお話がありました。

表敬には、経済、港湾、観光、上海万博等、大阪市の各担当部局長が同席し、今後の交流協力に関し、意見交換を行いました。



▲鄭総領事と平松市長

平松市長の上海市訪問

Mayor Hiramatsu Visits Shanghai

平松市長が、2009年1月12日(月)～14日(水)に、友好都市である上海市を訪問されました。

上海市滞在中は、2010年に開催予定の上海万博のベストシティ実践区への大阪出展契約調印を、実行委員会を代表して行いました。上海万博は、2010年5月1日(土)から10月31日(日)まで開催予定ですが、大阪は、ベストシティ実践区という枠組みの中で、大阪府、大阪市、関西財界が協同して、出展を行います。大阪出展の基本テーマは、「環境先進都市・水都大阪の挑戦」です。これまで大阪が培ってきた環境に対する先進的な取り組みや、水と共生してきたまちづくりを、わかりやすい形で、見ていただいた方々の記憶に残るようなものとして展示し、水都大阪をピーアールするとともに、世界的な

課題である環境問題の解決に向け、大阪の取り組みを発信していく予定です。

また、大阪市、日中経済貿易センターが共催、上海日本商工クラブ後援による、セミナーを開催しました。セミナーには、在上海の日系企業の方125名に参加いただき、平松市長が、大阪の都市魅力、まちづくりの方向性などをピーアールするとともに、担当より、上海万博への大阪出展の内容に関する説明を行い、出展への理解と協力に努めました。

韓正(カン セイ)上海市長との会談では、まず、韓市長から、友好都市提携35周年という記念すべき2009年新年早々、平松市長の上海訪問を歓迎し、これまで、経済、文化、科学技術など、さまざまな交流成果をあげてきたが、今後は、協同協力、新しい関係づくりが必要である」とのご挨拶いただきました。

平松市長は、本年が中華人民共和国建国60周年、大阪市制120周年という記念の年にもあたることに触れ、「今回が初めての中国訪問だが、中国と日本、上海と大阪の絆が深く強いことを改めて感じる。1992年度から、職員の人事交流を行っているが、毎年、優秀な人材を大阪市にお借りしていることに感謝したい、やはり「人と人との交流」が何よりも大切であり、相互理解を深め、新しい歴史を作っていきたい」と述べました。

韓市長は、2010年の上海万博において、日本の都市からの唯一の出展である大阪に、大いに期待しており、平松市長の「人と人との交流」が大切であるということに、全く同感で、その推進に大賛成である旨、述べられました。上海市では、黄浦江のナイトクルージングに参加し、上海のライトアップ・河川観光事業の視察を行ったほか、蘇州河の水質環境保全事業について展示している「夢清園」や、上海都市計画展示館などを視察し、上海の今を実感することができました。



▲握手を交わす平松市長と韓市長

Association News

主催：非営利株式会社ビッグ・エス・インターナショナル、大阪・ハンブルク友好都市協会、株式会社ビッグ・エス
ドイツ語スピーチコンテストの開催

The 8th National German Speech Contest

2008年10月25日(土)、大阪産業創造館において、ドイツ語スピーチコンテストを開催しました。

今回は「第8回全国ドイツ語スピーチコンテスト」が大阪を会場として開催されることに伴い、非営利株式会社ビッグ・エス・インターナショナル、株式会社ビッグ・エスと共催して実施しました。

全国からの応募者30余名の中からプレ審査を勝ち抜いた10名が本選に出場し、ドイツ語を使って自己表現を競い合いました。

このコンテストでは、関西地区出場者の中から大阪・ハンブルク友好都市協会会長賞、大阪市長賞の入賞者が選ばれました。

入賞者は翌年夏に大阪市の親善大使として姉妹都市に派遣され、語学の一層の研鑽とホームステイ等生活体験の機会を通じ、姉妹都市交流はもとより、国際的な相互理解と友好親善の担い手となる人材として、今後の活躍が期待されます。



◆大阪・ハンブルク友好都市協会会長賞◆

北山 紀明さん(演題：言葉で伝えるということ)

◆大阪市長賞◆

和田 恵子さん(演題：私がドイツで学んだこと)

第43回 SCCC (Sister City Communication Club)を開催

講師：関西タイムアウト編集長 クリストファー・スティーヴンズさん

The 43rd SCCC Exchange

Speaker: Christopher Stephens, Senior Editor of Kansai Time Out

2008年11月1日(土)大阪国際交流センターで、第43回 SCCC(Sister City Communication Club)が開催され、協会会員、一般参加の皆さん約40名にご参加いただき、盛況のうちに終了しました。

ゲスト・スピーカーの関西タイムアウト編集長クリストファー・スティーヴンズさんが、「Exploring and Understanding Kansai」と題して、大阪市国際交流員のパーク・ヒョンスと対談する形式で進行、大阪の一般的なイメージや



魅力、関西と関東の違いなどに触れながら、日本に滞在している外国人の状況や、外国人の生活の情報源として関西タイムアウトや他の外国人向けメディアが果たす役割など、興味深いお話をお聞かせいただきました。

お話の後は、スティーブズさんが参加者の皆さんのお席を回りながら、軽食と英話での質疑応答を楽しんでいただきました。

2008 国際交流の夕べ

2008 International Friendship Party

2008年12月16日(火)、会員の皆様に毎年好評を頂いております「2008 国際交流の夕べ」を大阪国際交流センターにおいて開催しました。

今年は姉妹都市協会会員、アイハウス（大阪国際交流センター）会員の皆様をはじめ、11カ国からの外国人留学生、研修生を合わせて約140名にご参加いただきました。

会場では日本学生支援機構大阪日本語教育センターのご協力で、民族衣装を着たインドネシアとサウジアラビアの留学生による情緒溢れるダンスが披露されるなど、人との出会いや情報交換、旧交を温める機会となり、年の瀬のひと時を楽しく過ごしました。

また、法人会員から協賛いただいた海外旅行券やホテルのお食事券など豪華商品が当たる恒例の福引抽選会も大いに盛り上がりました。ご協賛・ご協力いただきました皆様に厚くお礼を申し上げます。



<ご協力いただいた企業・団体（50音順）>

アサヒビール（株）
（株）伊藤園
江崎グリコ（株）
大阪ウォーターフロント開発（株）
大阪埠頭公社
（財）大阪国際交流センター
（財）大阪市教育振興公社
大阪市立自然史博物館
（社）大阪港振興協会
（株）近鉄百貨店
サントリー（株）
（株）サクラクレパス
（株）サンスターライン
シェラトン都ホテル大阪
（株）セイリュウ
（株）竹中工務店
帝国ホテル大阪
日本航空大阪支店
パナソニック（株）
（株）ビッグ・エス
丸紅（株）
（株）ユー・エス・ジェイ
ユナイテッド航空会社
ラマダホテル大阪
ルフトハンザドイツ航空会社
（株）ロイヤルホテル

第 44 回 SCCC (Sister City Communication Club) を開催

講師：メルボルン モナシュ大学准教授 アリソン・トキタさん

The 44th SCCC Exchange

Speaker: Alison Tokita, Associate Professor of Monash University

2009年2月14日(土)、ゲストスピーカーに、オーストラリアメルボルンのモナシュ大学准教授で、日本の舞台芸術と音楽を研究され、現在研究のため国際日本文化研究センター客員外国人研究員として来日中のアリソン・トキタさんをお迎えして、大阪国際交流センターにて開催し、協会会員、一般参加の皆さん44名にご参加いただき、盛況のうちに終了しました。

ゲスト・スピーカーのアリソン・トキタさんが"Melbourne, Osaka and Music"と題して、ご自身が研究中の両大戦間の大阪とメルボルンの近代社会について、音楽(特にピアノ)に焦点をあててお話をくださいました。大阪の町並みや文化的な映像もまじえた分かりやすい解説で、近代から現代にいたる両都市の文化的相違点などにも触れ、興味深いお話に参加者は熱心に聞き入りました。

講演後は、アリソンさんが参加者からのコメントや質問に一つずつ丁寧に答えながら、参加者との交流を深め、楽しい午後のひとときを過ごしました。



姉妹都市だより 第52号
(Sister City News, Osaka No.52)

Published by Sister City News Editing Office,
c/o International House, Osaka

- 発行：姉妹都市だより編集事務局
大阪・サンフランシスコ姉妹都市協会
大阪・サンパウロ姉妹都市協会
大阪・シカゴ協会
大阪・メルボルン姉妹都市協会
大阪・ハンブルク友好都市協会
大阪・ミラノ姉妹都市委員会

- 事務局：大阪市天王寺区上本町 8-2-6
大阪国際交流センター情報企画部
姉妹都市協会担当
TEL 06-6772-9670
FAX 06-6772-9790
E-mail info@sisterc.net
HP <http://www.sisterc.net>

各姉妹都市協会会員の皆様へのお願い

連絡先変更・近況報告等がありましたら、事務局まで
お気軽にご連絡くださいますようお願いいたします。